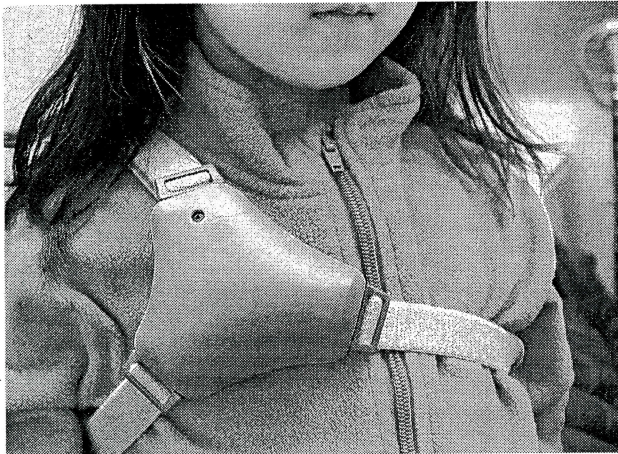


心拍数測る→カメラ撮影→ネットで報告



子供の胸部に装着してもらうことで、児童の位置や動き、心拍数などが確認できる

子供の行動
自宅で確認

筑波大学の李昇姫准教授と浜中雅俊講師らの研究グループは12日、子供の日常生活を親が自宅などで確認できる見守りシステムを開発したと発表した。カメラや心拍数計測装置などを搭載した小型機器を子供に装着してもらい、遠隔地の保護者がリアルタイムで子供の行動を確認する。18日から茨城県つくば市内の保育園で実証実験を始める。精度や耐久性などを高めて実用化を目指す。

筑波大が装置 実証実験へ

子供が装着する小型装置には、カメラや全地球測位システム(GPS)、加速度センサー、心拍計測器などが搭載してある。肩と脇の間にベルトを通す3点固定式で色や形状も子供の好みを取り入れた。重さは約100gで負担はほとんどない。この機器を胸部に装着してもらうことで、居場所や行動の変化などを遠隔地から確認できる。

子供が走ったり驚いたりして心拍数や動作状況が急激に変化した場合は内蔵カメラが周辺の状況を自動撮影、インターネットを通じて保護者に連絡する。実証実験では2～5歳の園児約40人に装着してもらい、1カ月間にわたってデータを集める。映像情報のほか、ほ

かの園児らの活動の様子と照らし合わせ集団行動の情報も解析する。

近年、子供を狙った凶悪事件や施設内での事故が相次いでいるが、就学前児童は自分や周囲で起

きた問題を言葉で説明することが難しい。カメラやセンサー機器を使い園児の行動を把握すること

で、保護者は園内で発生した事故やけんかななどの状況をネット上ですく

確認できる。

今後、音声情報や動画情報も確認できるよう改良する計画で、小学生や高齢者向けの防犯、見守りシステムとしての利用を見込む。